

[illegible]

①ゆきむら夢工房

②イトの坂(峠)の縁切り地蔵

大昔、長村が湖だった頃、加賀国白山の女神が亭主の男神を嫌ってイトの坂まで逃げてきて、ここから石の舟に乗って行ったため、男神は諦めて夫婦の縁を切ったという神話の地で、別名「縁切地」とも呼ばれている。この坂の頂上には縁切り地蔵と呼ばれた地蔵があったが、現在は十林寺集落の公民館横に移されている。今日でも霊験を求めて銭を奉納する人が多い。



③諏訪神社

真田氏本城の守り神で、祭神は健御名方命、前八坂刀売命。郷の草創の頃、諏訪大社より分霊をしたという古い神社。真田氏以前の郷主である戸沢道公より社領が寄進され、村上義清侵攻後に没収されるが、真田氏復帰後は真田昌幸から社領が戻され、崇拝された。



④真田氏本城跡

別名松尾新城、十林寺城とも呼ばれたが、真田地域の中央に位置し規模が最も大きいため、現在は真田氏本城に統一されている。登り口は熊久保集落と真田集落の2コースがあるが、共に本郭西側の平地(現在駐車場)に出る。芝生広場から北方向に本郭、二の郭、三の郭と続き、三方が急斜面となっている芝生広場からは眼下に上州街道や松代街道、遠くには上田市街地を見渡すことができる絶好の地である。



⑤熊久保の熊石と水場

真田氏本城の大手口と推測される位置にある集落で、大手口を守る兵の駐屯地と考えられる。集落上部には地名の由来となった熊石があり、付近から清らかな水が湧き出て集落の中央を流れ下っている。家ごとに貯水場を設け、炊事や洗濯に使っている。



旗見石

この石の上からは、上州街道や松代街道を行きかう人々が見えたので、敵が進軍してきたとき、その旗印を見分けることができたとはいわれています。



道しるべ

コースの一部に昔の上州街道や松代街道が組み込まれているため、旅人を導いた石碑の道しるべを見ることができる。

⑥十林寺のおたっちうの松の碑

真田氏本城の守備兵が駐屯していた根小屋集落と考えられ、中世ここには十林寺という寺院があった。真田幸隆の時代、本原に城下町を建設した時に移され、現在の広山寺になったと伝わる。上州街道の古道から十林寺跡につながる参道跡には「おたっちうの松」と呼ばれた古木があり、ここに塔頭(寺院)があったことを証している。

⑦上州街道石碑群

この辺りは、上田から神川の河岸段丘上を来た上州街道と合流したり、神川対岸の戸沢集落に分岐する道があったりして、街道の要所だった。そのため、旅の安全を祈願した石碑が多く建立された。猿田彦大神、馬頭大士、道祖神、そしてひときわ大きいのが「泉堂」と書かれた石碑で、近くに良い湧き水があったと思われる。



⑧たつ道と枳形

城や館の大手口に向かう道を「たて道」(たつ道)といい、入口部で道を直角に曲げてクランク状にして、敵の直進的な進撃を弱める場所を枳形という。真田氏館跡には、上州街道から東に斜面を登るたつ道に連続して枳形がある。



⑨真田氏館跡

この辺りの集落名「真田」が真田氏の氏名の由来となったと考えられる事から、集落の中央部で、真田氏の氏神である山家神社に隣接することから、ここに真田氏草創期の館があったと推定されている。東西70m、南北100mの緩やかな斜面で、中には岩井堂から人工的に引き込んだ水路や土塁跡もある。現在は民家となっているため、長谷寺への行く道からしか全景は見えない。



⑩風屋とうふ店

長谷寺への参道沿いにある豆腐屋さん。真田の郷随一の名水といわれる岩井堂川の伏流を汲み上げた自慢の水で造った豆腐は絶品と評判。最高級ブランドの「真田赤備え」は上田産のとうふ専用品種「ツブホマレ」を使っているため、軽く塩を振っただけで食べるとその味が引き立つ。



大日堂跡と六地藏

江戸時代まで大日如来が祀られた大日堂があり、その向かいには六体の地蔵が一つの石碑に刻まれた珍しい六地藏がある。風化が激しいので、じっくり見て確認して欲しい。



⑬天白城跡(てんぱくじょうあと)

赤井神社の背後に位置するのが天白城。標高970mで本郭の東尾根側に岩を切り落とした深さ3m巾2.5mの堀切がある。本郭の四方に石垣が積まれ、西側には石垣で補強した郭が連続して7段ある。真田氏本城とは馬蹄形をした尾根伝いに続き、2城で一つの城郭と考えられる。



⑮北赤井神社

赤井集落から天白城(てんぱくじょう)への登り口に位置し、本殿はなく拝殿のみが建っている。その代り、拝殿横から天白城に登る道の中腹に岩壁があり、各所に祠がある。この岩壁を磐座(いわくら)といい、この神社のご神体である。磐座に点在する赤松には霊気が宿ると言われて、江戸時代には上田城祭りの山車に掲げられた。



⑭上州街道

真田の郷には、古代から中世にかけては東山道、江戸時代には北国街道から分岐して、善光寺平や上州(群馬県)に行く道が幾筋か通っていた。その中で、真田三代の時代、上州に行く道として一番利用されていたのが、この上州街道であった。真田氏の上州支配の道でもある。

⑬真田バス停

⑫山家神社

創立は不詳だが、平安時代初期に編纂された「延喜式神名帳」に掲載されているため、創建はそれ以前のかなり古いことが推測される。四阿山の山頂に奥宮があり、四阿山を源とする神川沿岸地域の水分の神として厚く崇拝されていた。社伝によると奈良時代に加賀国から白山信仰が伝わり、明治の廃仏毀釈まで白山権現と呼ばれ、境内には神宮寺の白山寺が建っていた。真田氏も発祥当時から深い関わりがあり、真田氏の氏神として厚く崇拝していた。



⑪長谷寺

真田幸隆が上州に逃避しているとき、安中市上後関にある長源寺の僧晃運に帰郷したら寺を建立すると約束したことに始まると言われ、真田氏の菩提寺として幸隆・幸隆夫人・昌幸の墓所がある。真田氏の松代移封に際して、新たに松代に同音異字の長国寺が建立された。桃の形をした石造りの三門の形がユニークで、春には枝垂れ桜の美しさと相まって、写真スポットとして人気がある。



※歩行スピードを60m/1分間とします。 ※見学する時間は含んでおりません。